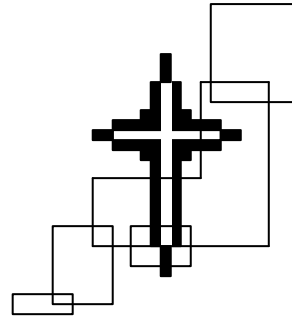


# 日本のための とりなし



わが国のために祈りましょう  
ニュースレター10月号  
2003年10月5日発行

日本のためのとりなしの会 事務局：〒228-0802 相模原市上鶴間6-1-17 皆川方 TEL042-747-5703 FAX042-746-2119 http://www.Christ-ch.or.jp/ *振替：00270-7-6421	委員長：皆川 尚一(神奈川県) 委員：友納 徳治(福岡県) 手束 正昭(兵庫県) 林田 金弥(神奈川県) 行澤 一人(大阪府) 久保 有政(埼玉県) 釘宮 義人(大分県)	長谷川 乃武男(東京都) 協力委員： 町田 誠(千葉県) 中原 耕平(千葉県)
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------

## 日本宣教論序説 (第8回)

日本に伝来したキリスト教

〔第6波〕欧米キリスト教の渡来

(1945年～2000年)

ヨハネ皆川尚一

### 1. 大日本帝国の敗戦と降伏

1945(昭和20)年日本軍は太平洋の広い戦場において敗退に次ぐ敗退を余儀なくされ、サイパン島と硫黄島の陥落によって米空軍B29爆撃機の本土空襲を連日受けるようになりました。日本の大中小都市に対する爆撃はホロコーストの有様を呈し、老若男女を合わせて死者90万人にのぼったと言われます。又、日本に幸福を勧告する連合国のポツダム宣言は7月25日に発表されましたが、日本の回答を待つことなく米国大統領トルーマンの決断によって8月6日に広島に原子爆弾が投下され、続いて8月9日に長崎に原子爆弾が投下され、合わせて30万の死者を出しました。このホロコーストに加えて、ソビエト連邦が一方的に日本との間の相互不可侵条約を破棄して8月9日ソ満国境を突破し、満州に侵入して来ました。これは既に2月のヤルタ会談の折にルーズベルトとスターリンの間で結ばれた秘密協定に基づくものであったことが後で分かりました。このような決定的な打撃を受けて日本は8月14日の御前会議でポツダム宣

言の受諾を決議し、8月15日に天皇御自身がラジオを通じて日本の降伏と新たな日本国再建への激励のお言葉を放送されたのです。満州事変から大東亜戦争の終結までの間に、海外での軍人・軍属の戦死者は約230万名、民間人は約30万名。本土での戦没者との合計380万名にのぼります。

ここで確認しておきたいのは、「日本は連合国に対して無条件降伏をしたのではなく、条件付の降伏をしたのだ」ということです。その条件とは「ポツダム宣言」の中に記されています。略言すれば、

無責任な軍国主義が世界から駆逐され、平和と安全と正義の新秩序が建設され、日本国の戦争遂行能力が破砕された確証があるまでは、連合国が日本国を占領する。

日本国の主権は本州、北海道、九州、四国およびわれらの決定する諸小島に限られる。

日本国軍隊は完全に武装解除されたのち、各自の家庭に復帰し、平和的かつ生産的生活を営んでよい。

われらは日本人を民族として奴隷化したり、滅亡させる意図は持っていないが、我らの俘虜を虐待したものを含む一切の戦争犯罪人に対しては厳重な処罰を加えるつもりである。日本国政府は日本国民に民主主義を復活させ、言論、宗教及び思想の自由、ならびに基本的人権の尊重を確立すべきである。

これに対して日本は、「天皇と国体を護持

する」という条件を付けてポツダム宣言を受諾すると連合国に申し出たのです。従って、これは条件付きの降伏であり、無条件降伏したのは全日本国軍でありました。600万の日本軍は、天皇陛下の命により肅然として一斉に武装解除しました。

## 2. 米軍の占領とその政策

1945年8月30日に日本占領連合軍最高司令官であったダグラス・マッカーサー元帥が神奈川県厚木飛行場に到着しました。やがて9月15日には、東京・皇居前の第一生命ビルに連合軍司令部（GHQ）が置かれ本格的な対日占領政策が実行されて行きました。

アメリカの占領支配は間接支配の形をとり、日本政府が占領政策を執行する役目を負いました。同時にアメリカは、沖縄、奄美（あまみ）、小笠原諸島を直接の軍事占領下におき、戦争終了後も沖縄県民を県内各所の収容所に閉じ込め、その間に土地をとりあげて米軍基地を建設するなど、ハーグ陸戦法規にも違反する不法行為を行いました。

一方、ソ連は日本の降伏に前後して、千島列島と北海道の一部である歯舞（はぼまい）・色丹（しこたん）・国後（くなしり）・択捉島（えとろふ）の四島と樺太（からふと）を占領し、講和会議を待たずに千島列島もろとも自国領に編入しました。これは第二次世界大戦の戦後処理の原則である「領土不拡大の原則」にそむくものです。又、スターリンは満州に在った日本軍60万人を捕虜としてシベリアに長期抑留し、強制労働に服させ、そのうちの約1割を死亡させました。これも重大な国際法違反でした。

さて、米軍の日本占領の目的は非軍事化と民主化にありました。

### （1）非軍事化

非軍事化の第一歩は1945年9月中に日本軍隊とその諸機関を完全に解体することでした。

又、戦争中の政府及び軍の首脳を戦争犯罪人として逮捕し、東京で極東国際軍事裁判を開いて東條英機ら7名を死刑（絞首刑）に、木戸孝一ら16名を終身禁錮刑に、東郷茂徳を禁錮20年に、重光葵（あおい）を禁錮7年に処しました。松岡洋右（ようすけ）、永野修

身（おさみ）は審理中に死亡し、大川周明（しゅうめい）は精神病のため審理を受けないことになりました。

この東京裁判についてマッカーサーは「これほど公正に行われた裁判はなく、これほど被告に完全な弁護の機会が与えられた例はなく、これほど偏見を伴わない審議が行われた例はない」と言ったといわれますが、自己欺瞞（ごきごまんと）というか偽善（ごぜん）というか、不公正と偏見に満ちた裁判であり、その悪影響は50年後の今日まで及んでいるのです。

### 【東京裁判の不公正】

戦勝国の敗戦国に対する復讐（ふしう）裁判であること。判事団は、アメリカ、イギリス、ソ連、フランス、中国、オランダ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの9カ国であり、オーストラリアのウィリアム・ウェップ裁判長はニューギニアの日本軍の残虐行為を調査した刑事あるいは検事として働いていたのです。

東京裁判が事後法によって裁かれたこと。この裁判は国際法によってではなく、「東京裁判」を行うための「裁判所条例（チャーター）」を新しく造り、それを国際法の上に置いて裁いたのです。その結果「平和に対する罪」が造られました。A級戦犯とされた人々は、日本が犯した侵略戦争によって世界の平和を乱した罪に問われました。これは「法の不遡及（ふそきゅう）」の原則に違反し、近代の法体系を破壊するものです。後に1951年5月3日、米国民議会上院の軍事外交合同委員会において、マッカーサーは次の証言を行いました。「したがって、彼ら（日本）が戦争に飛び込んでいった動機は大部分が安全保障の必要に迫られてのことだったのです」と。日本を東京裁判で「侵略国家だ」と断罪したマッカーサー自身がわずか5年後には大東亜戦争を自衛のための戦争であったと認めているのです。

ベン・ブルース・ブレイクニー弁護士（ユダヤ系アメリカ人）が、「国家の

行為である戦争の責任を個人に対して問うことは今日の法体系にはない。それゆえ戦争での殺人は刑法上の罪ではない。この法廷は罪にならない筈の行為を罪として裁くというしてはならない誤りを犯そうとしている。もし戦争における殺人が罪だというのなら、まずこの裁判で最も裁かれるべきは広島・長崎に原子爆弾を落として大量殺人を犯した責任者ではないのか。自分はその責任を有する参謀長の名も、投下を認めた国家元首の名も知っている。必要ならばその人々の名を挙げようか」といった趣旨の発言をした時、法廷は強いショックを受け、日本語への同時通訳は直ちに中止を命じられたといえます。

裁判の公正を装うため、あとから加えられたインドのラダ・ビノード・パール判事の意見書は、東京裁判の違法性と起訴の非合理性を突いたもので、東京裁判の底を流れている人種差別感情を論じており、数年間発表を許されませんでした。この裁判に関わった判事たちのうち、国際法を知っていたのはパール判事だけであったそうです。

この裁判は善悪二分法によって行われたこと。アメリカ＝平和国家、日本＝侵略国家。アメリカ＝善、日本＝悪。私は前回のレポートで、アメリカのルーズベルト大統領が資本主義による経済不況からの脱却を企って社会主義（即マルクス主義）を取り入れ、ニューディール政策を打ち出したことを述べましたが、このニューディーラーと呼ばれるマルクス主義のユダヤ系アメリカ人たちがマッカーサーのGHQに多数入って来て、マルクス主義の善悪二元論の見方に従って東京裁判と日本改造計画の実施をリードして行ったのです。

#### 【精神的武装解除計画】

マッカーサー司令部は東京裁判で日本を侵略国家・犯罪国家として断罪しただけでなく、更にこの罪責感を日本国民全体の中に浸透さ

せて、精神的に武装解除してしまおうと計画しました。それが「戦争罪責周知徹底計画」（ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム）です。

終戦直後に米軍は日本人に対してビラをまいたり、新聞やラジオを通じて意外なことをアピールして来ました。それは今度の太平洋戦争というのは、日本の一部の支配階級であった「天皇制軍国主義者」の起こしたものであって、被支配階級である大多数の日本国民には責任がない。いや、むしろ被害者である。皆さんはひと握りの天皇制軍国主義者にだまされていたのである」というのです。米軍が上陸したらひどい目にあうだろうと恐れていた一般日本人は戦争の自己責任を免れて、被害者意識を植え付けられ、なんとなくほっとした気持ちになり、軍部にだまされて無益な戦争をしたんじゃないかという虚無感を抱かせられたりしました。

ところが、1945（昭和20）年12月8日から17日まで、すべての全国紙に「太平洋戦争史」が連日連載されて、太平洋戦争の真相を暴露するという趣旨のもとに日本軍の残虐行為が連日報道されました。それに続いて「真相はこうだ」というラジオ番組を通じて軍国日本の犯罪というのが毎週日曜日朝6時から8時、夜は18時から21時のゴールデンタイムに2回放送されました。それだけでなく月曜日の午後12時半から13時には勤め人向けに水曜日の17時半から18時までは子供向けに、木曜日の11時から11時半までは学校向けに4回も繰り返して放送されました。この「真相はこうだ」は1945年12月9日から翌1946年2月10日まで毎週放送されたのです。これに対して日本全国からNHKに抗議の手紙や電話が殺到して来たので方針を少し変え、1946年2月17日から11月29日まで「真相箱」というソフトな内容にしました。問答形式で真実の中に一部ウソを混ぜるといったやり方です。このような日本人洗脳プログラムによって「侵略国家・犯罪国家のイメージを植え付けられ、自分の祖国に対する反感や否定、日本の伝統を無視し、軽視し、天皇陛下を無用のものとして排斥するような感情、ひいては自分自身の存在意義すらも見失うこと

になって行きました。

#### 【一億総懺悔・戦責告白】

この結果、戦争終結直後に世界的に有名であった賀川豊彦牧師が「一億総懺悔運動」を起こして全国を巡回したり、植村環牧師がアメリカの教会を巡回して「日本の罪を謝罪」して歩いたりしました。又、その他の牧師たちも韓国やフィリピンに行き、土下座して日本の罪を謝罪したりしました。1967年には、日本キリスト教団の総会議長鈴木正久（まさひさ）は、「第二次世界大戦下における日本キリスト教団の責任についての告白」を発表しました。そのことから、この大教団は社会派牧師に主導権を握られ、伝道はおろそかになり、今日のような衰退をもたらしています。このことは後で今少し詳しく述べたいと思います。この傾向は福音派やカトリック教会にも伝染し、1997年になって聖霊派の「日本リバイバル同盟」（NRA）が「戦争責任と謝罪文」を発表しました。この中で謝罪する罪のリストの中に「日本の真珠湾攻撃に対する謝罪」というのが含まれているのです。真珠湾がアメリカ参戦を米国民に同意させるためルーズベルト大統領が仕掛けた「わな」であり、日本海軍が攻撃するまえに戦いの火蓋は別の所でアメリカ軍によって切られていた事が1995年頃までに何冊もの書物を通じて日本人に知られていたのです。マッカーサーのマインドコントロールから抜け出られない人々が日本の牧師・伝道者の中にもいかに多くいるかという実情の表れでありましょう。

#### （2）民主化

更にGHQは日本の伝統を破壊し、民主化する政策を次々と打ち出しました。

10月4日「民権自由に関する指令」を出して、治安維持法、治安警察法、特別高等警察、新聞紙法、出版法など、思想・言論・結社などの自由を拘束してきた法令を撤廃し、戦時中投獄された共産党その他の全政治犯、思想犯を釈放させました。信仰上の理由で投獄されていた牧師・伝道者・信徒たちも釈放されました。共産党は徳田球一、宮本顕治（けんじ）、袴田里見（はかまださとみ）、黒木重徳（しげのり）、金天海、志賀義雄、神山茂夫たちが出獄し、党員1813人をもって党を再

建し書記長に徳田球一が選ばれました。1946年1月には中国から野坂参三が帰国し、2月には第5回共産党大会が開かれ、アメリカ占領軍を日本解放軍と位置づけて日本の民主化のための大会宣言を発表しました。

思想犯の釈放に続いて、男女同権、労働者の団結権、教育の自由主義化、専制政治からの解放、経済の民主化など五大改革の指令が出されました。さらに財閥解体、天皇財産の凍結、農地改革、神道と国家の分離、天皇神格化の禁止などの指令が1945年末までに次々と出され、1946年1月1日にはマッカーサーからの示唆を受けて、いわゆる「天皇の人間宣言」が発表されました。

元宣教師であり、GHQの民間情報教育局宗教課のスタッフであったウィリアム・ウッドガード(William P. Woodard)はその著「天皇と神道」(GHQの宗教政策)において以下のように述べています。「舞台を離れて城壁のかなたに引き込みがちに住んでいたのは、学者気質の日本国の支配者、天皇裕仁(ひろひと)であった。600万の兵士はその命によって降伏した7000万の臣民は『負けるはずのない』戦いに敗れたという事実をその口から聞き取った。それからというもの、彼らは、一途な決意をもって平和の基礎の上に自分たちの国を再建しはじめた。天皇はその身に国の決意を象徴し、同時にそれを体現していた。マッカーサー将軍は、運命の星が、それまでも、そのときも自分の側についていると確信していた。天皇は独特の穏やか形で悠久の皇祖の霊と八百万の神々と数千万の忠実な臣民が自分についていることを確信していた。この二人のパートナーシップが日本の占領を歴史上最も珍しい、最も平和的な、またたぶん最も成功した軍事占領にしたのであった。一方はアメリカ民主主義の『予言者』であった。もう一方は、日本国の最高位の『司祭』であった」。

マッカーサー将軍は、特定の教派の信者ではなかったようですが、自分が日本をキリスト教化するべく神から遣わされた宣教師であるかのように振舞ったと言われます。本国から来たキリスト教界の代表に対して「カトリックの神父はすでに900人日本に留まってい

る。プロテスタントから1000人の宣教師を送ってほしい」と要請しました。そして、戦前日本から退去した宣教師の復帰をうながしたので、1946年8月1日までに、カトリック64人、プロテスタント46人、計110人の宣教師が入国しました。1945年8月から1950年（朝鮮戦争）までに入国した宣教師の数は3130人に及びました。この中には朝鮮半島から戦火に追われて引き上げて来た宣教師2000人が含まれています。

### （3）拝啓マッカーサー元帥様

法政大学教授・袖井林二郎（そでいりんじろう）はその著「拝啓マッカーサー元帥様」大月書店刊において、占領時代のマッカーサー元帥に対して、日本全国から総計50万通の信頼に満ちた手紙が寄せられたことを発表しています。それは1973年スートランドのWNRC（ワシントン・ナショナル・レコード・センター）の地下で彼が発見したものです。賞賛の手紙、招待状、天皇を守られよ、天皇を廃されよ、直言、感謝、様々な階層から、

国粹主義者から、共産主義者から、マッカーサーを信頼して書かれたものです。しかし、1950年からアメリカの占領政策は右傾化し、人々の心も変化して行きました。「3年経つとどんな軍事占領もそれ自身の重みで崩れ始める」（マッカーサーの言）。

### 3. キリスト教ブーム（1946年～1950年）

多くの教会堂が戦火で焼失しましたが、マッカーサーの占領政策によって、アメリカ軍供与のコンセツト・ハットというかまぼこ型の仮礼拝堂が建てられ、敗戦の虚脱状態に陥った人々はキリスト教に生きる道を求めて教会へ教会へと集まりました。どの教会も人々が礼拝堂に充満しました。私の母教会（神奈川県・横須賀教会）も戦時中8名だったのがたちまち100名となり、日曜学校は400名となりました。しかし、そのブームも1950（昭和25）年に勃発した朝鮮戦争を境に下降線を辿って行きました。それは、軍需産業の隆盛と娯楽の増加、対米不信などが原因でしょう。

（以下、次号に続く）



## 地域別とりなし祈禱会

### 1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師  
〒001-0032

札幌市北区北 32 条西 5-3-27

TEL 011-717-1801

毎月第 2、第 4 日曜日午後 2 時

### 2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明

〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ

TEL 0134-62-3561

毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

### 3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄

〒335-0003 蕨市南町 3-3-12

TEL0484-42-0967

毎月祝祭日午後 2 時

### 4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師

\* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)

\* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師

TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 4 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉

\* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)

\* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉

TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第 1 月曜日午後 1 時 30 分

### 5. 神奈川県

横浜市 : シオン・エルサレム教会 平瀬戸恵理牧師

〒220-0044 横浜市西区紅葉が丘 6-2

TEL & FAX 045-243-9135

email: a\_motherofnations\_sarah@jp-t.ne.jp

毎月第 2or 第 3 水曜日午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分

聖書とお茶の会 吉田久子姉

〒241-0836 横浜市旭区万騎が原 8-9 吉田方

TEL 045-363-5657

毎週金曜日午後 2 時

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師

〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17

TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119

URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>

毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

## 6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師  
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1  
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後7時30分

## 7. 静岡県

静岡市 : リビングウェイ・チャーチ リッキー・ゴードン師  
〒420-0841 静岡市上足洗4丁目6-16-7  
TEL 054-248-4058 毎月第1日曜日午後2時

## 8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・ローズマリー・バス  
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館3F  
TEL 075-781-3330 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

## 9. 大阪府

寝屋川市:日の出キリスト教会 滝本千歳牧師  
〒572-0835 寝屋川市中木田町26-9  
TEL&FAX0720-22-9232 毎月第3木曜日午後2時

## 9. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師  
〒676-0015 高砂市荒井町紙町1-34  
TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

## 10. 福岡県

福岡市内:福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師  
〒811-1344 福岡市南区三宅3-33-1  
TEL 092-561-4232 毎朝午前5時00分

伊都キリスト教会 友納徳治牧師  
〒819-0167 福岡市西区今宿井尻12-4-1  
TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日7時30分

## 11. 大分県

別府市:フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師  
〒874-0933 別府市野口元町10-1  
TEL & FAX 0977-26-3692  
e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp  
毎週金曜日午後7時30分

## 12. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師  
〒900-0031 那覇市若狭2丁目9-5 毎週土曜日午後6時  
TEL 098 - 868 - 5641



## 2003年10月号祈りの焦点

### (1)継続的課題

1)公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

\* 国民新聞平成13年6月号に「池田大作帰化人説」が掲載されています。

永田町ウォッチャー、富士谷紹憲氏によると、創価学会の池田大作名誉会長は「帰化した在日朝鮮人」と暴露した。

学会をバックにする公明党が外国人の地方参政権付与に躍起になっているのも、このためだという。富士谷氏によると、父方の本名は成田作（ソンジョンチャク）で母方は池（チ）姓という。また、池田は昔から日本に先祖の墓がない、「大田区大森海岸の朝鮮部落の海苔の漁師出身」「日本語がうまく喋れず、寡黙な男」と言われているが、学会機関紙「大白蓮華」（2000年3月号）に掲載された池田の人生記録の中で「父が韓国語を覚えてくれた思い出がある」「私の少年・青年時代には多くの在日韓国朝鮮人の方々との出会いがあった」「韓日文化交流」と「韓」を「日」の前に記述するなど、父母が戦前に帰化した朝鮮人であれば納得できる記述が散りばめられている。

2)カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

〔解説〕

\* カルト集団からの脱会者は、キリスト教会に入ってから「伝道活動を沢山すれば救われる」といったようなマインド・コントロールから中々脱け出せないでいる場合が多いようです。マン・ツー・マンで長い間かかっても解放されるように努力する必要があると思われます。

3)天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中であって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

\* 今年6月新潟県を行幸啓された天皇・皇后両陛下は、昼食のため6月13日に立ち寄られた柏崎市役所で、市職員として働いている拉致被害者の蓮池薫、裕木子夫婦に、「お帰りなさい」「力を合わせて頑張ってください」とねぎらいのお言葉をお掛けになりました。又、両陛下は市役所を出発する直前、見送りの列の中に蓮池さん夫婦を見つけると、立ち止まれ、約3分間、言葉を交わされました。「ハングルを教えているそうですね」「うまくはないですが、一生懸命やっています」「保育園での仕事はいかがですか」「子供たちに囲まれ一日一日を楽しく過ごしています」など。

天皇・皇后両陛下は儀礼的、事務的に国民に対して語っておいでになるのではなく、いわば国父・国母のように親身になって色々な場面で国民のひとりびとりに愛情と思いやりとを表しておいでになります。

4)互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

〔解説〕

\* 私たちは、考え方ややり方の違う個人や団体と付き合う場合、違いを強調して対立することを止め、一致点を強調し、互いの長所を認めることによって悔い改めと和解に至るのではな

いでしょうか。未だ救われていない人々の救いを共に祈ることによりアルゼンチンではキリスト教各派が一致協力するに至ったという実例があります。

5)キリスト教の文書伝道が進展するように祈りましょう。

〔解説〕

キリスト教関係の新聞社

キリスト新聞、クリスチャン新聞、リバイバル新聞

キリスト教系の出版社

新教出版社、教文館、日本キリスト教団出版局、レムナント社、マルコーシュミッション、生ける水の川、みるとす社等

6)TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

\*日刊ゲンダイ9月27日(土)号は、トップ記事で「たった1000人余りの回答がなぜ『世論』なのか」と問いかけています。9月20日の自民党総裁選挙で小泉潤一郎氏が再選されて、23日には改造内閣の人事が発表されました。同じ首相、同じ政党が支える政党なのに閣僚の顔ぶれが変わっただけで支持率が急増したというのです。マスコミの世論調査では、毎日と日系が65%、読売63%、朝日59%、産経59.9%、共同通信66%等いずれも前回の調査から6~10ポイントも上昇しています。これらの世論調査は業者に委託して行われ、コンピュータで無作為に約3000の電話番号などを作製し、かたっぱしからかけて回答が1000に達したら終って集計するものです。世論操作の疑惑が残ります。

7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記1:28)。

〔解説〕

\*国庫が債務により事実上空っぽになっており、国民の貯金も使い尽くされているのに、政府は対外援助に莫大な金額と投入し続けています。もはや日本には対外援助を行うゆとりはないはずです。そのためかどうか政府は老人福祉を削って、少子化対策に当てようとしています。早くこの矛盾が解決されるように祈りましょう。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を恐れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

\*小泉首相は、衆議院を10月10日解散し、総選挙の投開票日を11月9日とする政治日程を発表しました。この選挙は「自民・公明・保守」対「民主党」の政権選択選挙といって良いでしょう。

\*日本の国政を担うに足る真の政治家が起こされるように祈りましょう。

2)日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

\*リバイバル・ミッション、日本キリスト伝道会、1000万救霊運動、日本民族総福音化運動、

聖霊カリスマ刷新運動が用いられますように。

- \* 福音が家族・家系を通じて子々孫々に受け継がれて行くために、具体的な方法を実践して行く必要があると思われまます。
- \* 遠い古代から日本人の中に播かれ、受け継がれて来た福音の種（たね）を芽吹かせるために。

3) 北朝鮮による拉致問題の解決があくまでも外交上の最優先課題とされ、拉致被害者の家族が日本に帰って来るように。又、北朝鮮の書く準備が取り除かれるように。

〔解説〕

- \* 週刊文春 8月28日号の元北朝鮮書記黄長華（ファンジャンヨブ）氏の手記によれば、北朝鮮は既に核兵器を5個以上持っていること、北朝鮮の崩壊を支えているのは韓国と日本の同調者であること、人権問題を前面に立てて交渉を進めるべきだということが強調されています。韓国政府は黄氏の口封じをして来ました。
- \* 黄長華氏の訪日、訪米ビザが速やかに交付されるように祈りましょう。
- \* 北朝鮮の金正日政権が速やかに平和的に崩壊するように祈りましょう。

4) 日本における教育が健全な方向に導かれるように。

〔解説〕

- \* 教育問題に特に尽力している山谷えり子衆院議員は7月18日衆院予算委員会の集中審議で質問し、小泉首相は「学校性教育のあり方を見直すべき」との考えを示唆しました。山谷議員は小学生に「セックス、セックス」と連呼させたり、性的虐待アニメや性器付き等身大人形を用いて性行為を教えている教育現場の現状を紹介し、また回収措置がとられたはずのパンフレット「ラブ&ボディーBOOK」が回収されることなく現場で使用されていることを指摘し、小泉首相の見解を質しました。高崎経済大学の八木秀次助教授も警鐘を鳴らしています。

5) 日本が日本独自の外交・防衛のビジョンを持つことが出来るように祈りましょう。

〔解説〕

- \* 日本が台湾との同盟関係を視野に入れたアジアにおける協力関係を求めて行くように。
- \* 産経新聞9月28日号の記事によれば、再訪日を検討していた台湾の李登輝前総統はこのほど、訪問を断念したことを受け入れ側に伝えてきました。それは盛岡市出身の教育家新渡戸稲造の没後70年式典が10月18日に行われるので、同市内の新渡戸稲造顕彰会から講演の要請を受けていたのですが、日本国外務省がビザ（査証）を発給しないためとの事です。

6) 「日本が、過度にアメリカ型に傾斜してしまった経済システムのあり方を見直して、日本の個性、使命、賜物を生かし、未来を展望できるような資本主義経済のあり方を見出していくことができるように。そのために、特に、経済界の指導者たちがクリスチャンとなって、神が日本の国に抱いておられる将来と希望、そして固有の賜物につき、発見と洞察が与えられますように。ビジネスマン伝道が特に祝福されるように。」

〔解説〕

- \* 現在、株価が回復し、景気も底離れして、回復基調に転じてきたと言われていています。しかし、皮肉なことに現在の株価を牽引しているのは、一時お荷物といわれたいわゆる四大都市銀行株であり、その端緒となったのは、りそな銀行に対する公的資金注入です。つまり、日本政府は、こんな破綻した銀行でさえ救済するのだから、他の都銀についても必ず救済する、しかも経営陣を総入れ替えし、既存株主の利益（他ならない日本の国民資産）を削ってでも、安く海外の投資家に譲ってくれる、というメッセージを、現在、東京証券取引所における売

買残高3割以上を占める外国の機関投資家が受け取ったからこそ、彼らによる積極的な日本の銀行株買いが入っているのです。おまけに、りそな銀行の一件は、竹中金融大臣の筋による自作自演の「危機・救済劇」だったとも言われています。「税効果会計」において、どこまでの利益を自己資本に組み入れられるかという、極めて人為的・作為的な判断によって、りそな銀行「債務超過」という事態が作り出されたということです。確かに、結果として株価は上昇し、銀行や他の金融機関についても、保有株等が含み益を出しております。しかし、この事態は、日本の金融機関の命運を握っているのは、今や、市場を通じた外国機関投資家であること、そして財務省や金融庁がその気になれば、いつでも「金融危機」を演出できるし、むしろ外国機関投資家は、その危機を通じて、より大きな利益を期待することができるということを、はしなくも露呈してしまっています。

- \* 日本の金融機関は、日本国民の大切な金融資産を国民のために保有しているのであり、いわば日本の国民全体に対して責任を負っていると言えます。自民党総裁選挙を通じて、あれだけ自民党内に小泉改革による経済政策の転換を求める声があったにも拘わらず、小泉総理の国民的な人気に押されて、そのような声が十分な議論を経ないまま押しつぶされてしまったことは残念です。識者の間では、むしろ亀井静香前政調会長の経済政策の方により合理性がある、という意見が多かったように思います。
- \* 田中角栄が築き上げ、竹下登によって発展せしめられた、特定グループの利権を産み出すような政治体質（親分 - 子分的な組織をいたるところに張り巡らせ、このネットワークを通じて思いのままに税金資源の再配分を図る）を破壊したという点においては、小泉改革は目覚ましい成果を上げており、その点では評価できる面もありますが、しかし、小泉改革は、余りに「都市優遇」、「金持ち優遇」、「勝者優遇」の面が強く、公平に、かつ広く国民全体に福利（利権ではない）をもたらすべきだという観点からは、非常に問題があると言えます。市場システムというのは、形式合理的には非常に公平ですが、「実質的な公平性」とはほとんど関係付けられていません。それはむしろ「政治」が市場をどう使うか、という政策判断に拠らなければならないのです。

#### 7)旧日本軍毒ガス放置問題に対して日本政府が公正な立場を厳守するように。

〔解説〕

- \* 旧日本軍が中国東北地方（旧満州）に放置した毒ガス弾や砲弾で死亡したり、後遺症などの被害を受けた中国人の被害者や遺族13人が日本政府に2億円の損害賠償請求を求めた訴訟の判決が9月29日東京地裁でありました。片山良広裁判長は「国は調査や回収を中国政府に申し出ることが可能で、被害防止のための措置を委ねる作為義務を怠った」として、原告側の訴えを全面的に認め、国に1億9千万円の支払いを命じました。今回の裁判の奇妙な点は、同じ訴訟に対する別の判決が本年5月にすでに出ている事です。5月の東京地裁の判決は、「毒ガスの遺棄・放置は違法」としながらも「調査や回収は著しく困難だった」として、請求を斥ける判決を言い渡しているのです。日中間の戦争賠償の請求放棄の条約があるのに、今回の片山裁判長の判断によれば、日本国への賠償請求は無際限になるでしょう。

#### 8)米軍が劣化ウラン弾の使用をやめるように

〔解説〕

- \* 週刊文春2003年7月24日号の記事によれば、かつて湾岸戦争のとき米軍がイラクにばら撒いた劣化ウラン弾は総量320トンで、放射能原子の量は広島に落とされた原爆の一万倍以上といわれます。今回のイラク侵略では500トン使用されたと言われます。日本政府はひたかくしにしていますが慶応大学の藤田裕幸助教授や徳島県立海部病院の井下俊（いのしたとし）

医師がイラクを訪れて調査した結果、大量のウラン弾が使われたことは間違いなく、小児癌や白血病が急増していることがわかりました。劣化ウランは燃えると5ミクロン以下の微粒子となって数十キロの範囲に飛散し、空気とともに肺に入り込むだけでなく、野菜、家畜、地下水にも浸透します。胎児の奇形にも影響するのです。

\* イラクだけではなく。沖縄の米軍が軍事演習で秘密のうちに劣化ウラン弾を使用していたことが過去の事例で明らかになったことがありました。日本政府はこのような劣化ウラン弾の使用禁止を米軍に求める必要があると思います。

9)イスラエルの平和のために祈りましょう。

「見よ、イスラエルを守る者は、まどろむこともなく、眠ることもない」(詩篇 121:4)

[解説]

\* イスラエルのシャロン内閣がアラファトを排除することを決議してからのちは、少しの間、自爆テロが行われていないようです。

\* 神様のご介入によってイスラエルとアラブとの間に平和が生まれるように。

## 《会計報告》(2003年6月1日～2003年7月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	90,000	交 通 費	29,120
		印 刷 費	2,597
		資 料 費	29,609
		郵 送 費	21,880
		事 務 費	635
		振替手数料	730
		電 話 料	9,282
小 計	90,000	小 計	93,853
前月繰越	113,723	翌月繰越	109,870
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	254,897	合 計	254,897

## 【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	1回	澤田昭夫(東京)	1回
相模大野教会(神奈川)	2回	新堀修三郎(神奈川)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	中路登志弘(埼玉)	1回
日之出キリスト教会(大阪)	1回	佐藤節代(神奈川)	1回
長谷川乃武男(東京)	1回	川田哲裕(神奈川)	1回
シスター・ヴァクトリ(京都)	1回	匿名(東京)	1回

## 【編集後記】

- \* ニュースレター10月号をお届けします。
- \* 今回は「日本宣教論序説」(第8回)で、1945年から1950年までの日本の状況、日本占領軍の政策、そして戦後のキリスト教ブームまでを述べました。
- \* 前回のレポートは、多くの方々からご好評をよせられ、ご献金をいただき感謝申し上げます。
- \* 10月20日(月)から22日(水)まで開催される日本のとりなし委員リトリートの講師と演題を記載しておきます。

20日(月)夜  
林田金弥牧師 ローマ5:12～21  
「アダムの世界とキリストの世界」

21日(火)  
久保有政牧師 マタイ5:9  
「平和をつくる者」  
行澤一人牧師 テモテ2:13  
「愛国心とキリスト教」  
小林よりのりの「戦争論」を契機として  
手束正昭牧師 箴言1:29～18  
「日本民族総福音化運動について」

22日(水)  
長谷川乃武男牧師 ペリピ1:27～30  
「一つ霊において堅く立つ」

(ヨハネ 皆川尚一記)

## 《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2003年12月8日(月)12時  
場所：日本キリスト教団 高砂教会

